

幼稚園教諭養成課程における「領域に関する専門的事項」に求められる 授業内容に関する一考察 — 保育内容領域「人間関係」及び 「環境」のモデルカリキュラムを手がかりとして —

中川 智之¹, 橋本 勇人¹, 入江 慶太¹, 尾崎 公彦¹, 笹川 拓也¹, 大江 由美¹,
三宅美智子¹, 重松 孝治², 橋本 彩子¹, 岡正 寛子³, 種村 暁也⁴

Consideration on Teaching Required for “Technicality of Areas”, in Kindergarten Teacher-Training Course

— Based on Model Curriculum for the Area of “Human Relationships” and “Environment” —

Tomoyuki NAKAGAWA¹, Hayato HASHIMOTO¹, Keita IRIE¹, Kimihiko OZAKI¹,
Takuya SASAKAWA¹, Yumi OE¹, Michiko MIYAKE¹, Kouji SHIGEMATSU²,
Ayako HASHIMOTO¹, Hiroko OKAMASA³ and Akinari TANEMURA⁴

キーワード：領域に関する専門的事項，モデルカリキュラム，授業モデル，授業内容の検討

概 要

本論の目的は、幼稚園教諭養成課程において新設された「領域に関する専門的事項」において取り扱うべき内容の射程について検討することである。具体的には、保育教諭養成課程研究会が作成したモデルカリキュラムと授業モデルについて、活動内容、教育内容、及び取り扱っている内容の種別等の観点から分析した。その結果、授業モデルには、①幼児の発達に関する内容、②幼稚園外における経験や現代の特徴、諸課題、③「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」等が示されており、「領域に関する専門的事項」は乳児期・児童期や幼稚園外の生活も射程に含むことを明らかにした。また、「領域に関する専門的事項」と「保育内容の指導法」の教育内容の射程が、教材研究における観点から区別できることを示した。今後、より具体的に取り上げるべき内容について論考するとともに、各養成校において質の高いカリキュラム及びシラバスを作成することが肝要である。

1. 緒 言

本研究の目的は、教職課程の変更に伴い新たに幼稚園教諭養成課程に設置された「領域に関する専門的事項」において取り扱うべき内容の射程について検討することである。

平成29年3月31日に、幼稚園教育要領の改訂がなされ、文部科学省より告示された¹⁾。今回の改訂の要点は、カリキュラム・マネジメントの充実や幼稚園教育と小学校教育との円滑な接続等である²⁾。それらを実現するために、幼稚園教育要領に新たに示されたのが、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」であり、幼稚園修了までに育ってほしい具体的な姿について、「健康な心と体」「自立心」等により示された。また本改訂は、子ども・子育て関連3法の成立（平成24年8月10日）後、初の改訂に当たり、その保育内容については、保育所保育指針及び幼保連携型認定こども園教育・保育要領の3歳児以上の保育内容と整合性が図られ、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」についても同様に示された。

他方、平成27年12月21日の中央教育審議会答申「こ

(平成30年10月16日)

¹川崎医療福祉大学 子ども医療福祉学科

²川崎医療短期大学 医療保育科

³山陽学園短期大学

⁴社会福祉法人 ももぞの学園

¹Department of Medical Welfare for Children, Kawasaki University of Medical Welfare

²Department of Nursing Childcare, Kawasaki College of Allied Health Professions

³Sanyo Gakuen College

⁴Momozonogakuen

れからの学校教育を担う教員の資質能力の向上について～学び合い、高め合う教員育成コミュニティの構築に向けて～」を受けて、平成28年11月には、教育職員免許法の一部改正が、平成29年11月には、教育職員免許法施行規則の改正が為された^{3,4)}。この改正により、教職課程は、大学の独自性を発揮し新たな教育課題等に対応できるように大きくくり化され、「教科に関する科目」と「教職に関する科目」等の科目区分が撤廃され、教科の専門的内容と指導法を一体的に学ぶことを可能とする「教科及び教職に関する科目」とされた。

幼稚園教諭養成課程においては、「領域及び保育内容の指導法に関する科目」が設置され、「イ 領域に関する専門的事項」と「ロ 保育内容の指導法（情報機器及び教材の活用を含む）」を含めることが必要とされている。この内、「ロ 保育内容の指導法（情報機器及び教材の活用を含む）」については、これまでの教職課程において、「教職に関する科目」の「教育課程及び指導法に関する科目」の中に位置づけられていたものである。

「イ 領域に関する専門的事項」については、従来の小学校の「教科に関する科目」が撤廃され、それに替わるものとして新設されたものである。この改訂により、幼稚園教諭養成課程においては、小学校教育に関する学修が減少する可能性がある。このことは、文部科学省初等中等教育局長の通知においても触れられており、「幼稚園教諭が小学校教育についての理解を深めることは引き続き重要」と示されており、幼稚園教諭養成課程において、小学校教育に関する学修をどのように担保するのかが一つの課題として指摘できる⁵⁾。なお、経過措置として、従来の「教科に関する科目」を用いて教職課程を開設することが、平成34年度入学生までは可能となっている。

今回の改正にあたり、文部科学省は、質の高い幼児教育を推進していくための幼稚園教諭の養成の在り方について、幼稚園教諭の養成課程におけるモデル・カリキュラムの開発に向けた調査研究を行っている（委託研究⁶⁾。委託先となった一般社団法人保育教諭養成課程研究会は、「領域に関する専門的事項」のモデルカリキュラム及び「保育内容の指導法（情報機器及び教材の活用を含む）」の教職課程コアカリキュラムとモデルカリキュラムを作成し、報告書にまとめている⁷⁾。

しかしながら、平成31年度からの教職課程に向けた再課程認定にあたり、「領域に関する専門的事項」においてどのような内容を含むべきか、複数の幼稚園教諭

養成校からの質問が文部科学省に寄せられているのが現状である⁸⁾。また、それらの質問への回答として幼稚園教育要領とともに参考とするよう提示されているのが上記の報告書であるが、その報告書を作成した保育教諭養成課程研究会においても、「領域に関する専門的事項」に含まれる具体的な内容についてはこれから明らかにしていくべき課題として位置付けており、平成30年度に領域の専門的事項を主な研究とする特別研究部会が設置された⁹⁾。このようなことから、「領域に関する専門的事項」で取り扱うべき具体的な内容については、共通的な認識が形成されていないのが現状と言えよう。

「領域に関する専門的事項」に関わるこれまでの研究として、奈良教育大学の行っている一連の研究が挙げられる¹⁰⁻¹⁴⁾。これらは、幼稚園教育要領の各領域に示された「ねらい」を手がかりとし、各ねらいの内容と科目を担当する教員の研究分野における幼児教育に関する知見との関係について論じたものであり、「領域に関する専門的事項」に含まれる具体的な内容を指摘したものと見えよう。しかしながら、「領域に関する専門的事項」に含まれる内容の種別やその射程について論じたものではなく、それらを明らかにし、各養成校における共通理解を促し得る基礎資料を作成できれば、質の高い幼稚園教諭を養成するための一助となる。

そこで本論では、このモデルカリキュラムの内、小学校就学以降の教科との関係性が保育内容領域「健康」「言葉」「表現」ほど明確ではない「人間関係」及び「環境」を取り上げ、「領域に関する専門的事項」において求められる授業内容の射程について検討する。具体的には、保育教諭養成課程研究会が作成したモデルカリキュラムと授業モデルを、授業内容及び活動の観点から分析するとともに、幼稚園教育要領の本改訂において示された「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」や小学校の教科等との関係についても整理して示す。

2. 方 法

分析の対象は、保育教諭養成課程研究会が作成した「平成28年度幼稚園教諭の養成課程のモデルカリキュラムの開発に向けた調査研究—幼稚園教諭の資質能力の視点から養成課程の質保証を考える—（報告書）」に示された領域「人間関係」及び「環境」のモデルカリキュラム及び授業モデルである（表1・2）。

このモデルカリキュラムは、教育職員免許法及び同施行規則に基づき全国すべての大学の教職課程で共通

表1 領域「人間関係」に関する専門的事項のモデルカリキュラムと授業モデル

全体目標	当該科目では、領域「人間関係」の指導の基盤となる、幼児の人と関わる力の育ちに関する専門的事項についての知識を身に付ける。	
A 幼児と人間関係における現代的課題		
一般目標	幼児を取り巻く人間関係をめぐる現代的課題を理解する。	
到達目標	A-①	幼児を取り巻く人間関係の現代的特徴とその社会的背景を理解している。
	A-②	人と関わる力の育ちがその後続く一人一人の人生を支える力となることを理解している。
B 幼児期の発達と領域「人間関係」		
一般目標	幼児期の人間関係の発達について、幼稚園生活における関係発達論的視点から理解する。	
到達目標	B-①	乳児期に育つ人と関わる力の発達について、身近な大人との関係から説明できる。
	B-②	幼児期の遊びや生活の中で育つ人と関わる力の発達について、教師との関係、幼児との関係、集団の中での育ちを観点として説明できる。
	B-③	自立心の育ちについて、発達の姿と合わせて説明できる。
	B-④	協同性の育ちについて、発達の姿と合わせて説明できる。
	B-⑤	道徳性・規範意識の芽生えについて、発達の姿と合わせて説明できる。
	B-⑥	家族や地域との関わりと育ちについて、発達の姿と合わせて説明できる。

■考えられる<授業モデル> (※括弧内の記号は、上記の到達目標の内、特に関連の深いものを示す)

授業モデル	(1)	講義の初めの段階で、親子やきょうだい関係、地域における子供同士の関わり等、幼児を取り巻く人間関係について、1950年頃からの年代毎に異なる特徴的な事例を挙げながら、現代的特徴と課題を考える機会を設け、講義の内容に関心をもたせる。(A-①)
	(2)	幼稚園教育において育みたい資質能力を領域「人間関係」の視点から考察し、大学生活で求められる人と関わる力との関連について話し合う。(A-②)
	(3)	幼児の様々な発達の諸側面が人と関わりの中で育つことについて、それぞれの発達の時期の特徴と関連づけて理解できるように、具体的な事例を基に説明する。(B-①～⑥)
	(4)	幼稚園生活における決まりにはどのようなものがあるか等について、具体例を挙げ、それぞれの決まりが幼児にとってどのような意味をもつか考え、話し合う機会を設ける。(B-⑤)
	(5)	人間関係領域の専門性に関わる最新の知見に基づき、集団の中で見られる具体的な幼児の姿や幼児同士の関係の発達が理解できるように説明する。(B-①～⑥)

原典：「平成28年度幼稚園教諭の養成課程のモデルカリキュラムの開発に向けた調査研究—幼稚園教諭の資質能力の視点から養成課程の質保証を考える—(報告書)」⁷⁾。

的に修得すべき資質能力を示す教職課程コアカリキュラムの対象とはなっていないものの、それに相当するものとして作成されている。そのため、教職課程コアカリキュラムと同様に、当該事項を履修することによって学生が修得する資質能力を「全体目標」、全体目標を内容のまとめ毎に分化させた「一般目標」、学生が一般目標に到達するために達成すべき個々の規準を「到達目標」として表されている¹⁵⁾。また、各授業モデルにおいては、特に関連の深い「到達目標」が、授業の活動ともに記されている。

そこで、本論では、各授業モデルについて、特に関連が深いことが示されているモデルカリキュラムの「到達目標」と、その到達目標を含有する「一般目標」を踏まえ、学生に「何をどのように身につけさせよう」と想定しているのか」という観点から分析し、授業の

活動内容(「どのように」にあたる部分)、教育内容(「何を」にあたる部分)、及び取り扱っている内容の種類について検討する。また、今回の幼稚園教育要領の改訂において、新たに示された「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」との関連、及び関連すると考えられる小学校の教科等についても検討する。なお、小学校の教科等との関連については、中央教育審議会答申「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について」の別添資料を参考にした¹⁶⁾。

3. 結果と考察

分析の結果を、表3・4、及び以下に示す。

・授業の活動内容については、演習形式の授業がモデ

表2 領域「環境」に関する専門的事項のモデルカリキュラムと授業モデル

全体目標	当該科目では、領域「環境」の指導に関連する、幼児を取り巻く環境や、幼児と環境との関わりについての専門的事項における感性を養い、知識・技能を身に付ける。	
A 幼児を取り巻く環境		
一般目標	幼児を取り巻く環境と、幼児の発達にとっての意義を理解する。	
到達目標	A-①	幼児を取り巻く環境の諸側面（物的環境、人的環境、社会的環境、安全等）と、幼児の発達におけるそれらの重要性について説明できる。
	A-②	幼児と環境との関わり方について、専門的概念（能動性、好奇心、探究心、有能感等）を用いて説明できる。
	A-③	知識基盤社会及び持続可能な開発のための教育（ESD）などの幼児を取り巻く環境の現代的課題について説明できる。
B 幼児の身近な環境との関わりにおける思考・科学的概念の発達		
一般目標	幼児期の思考・科学的概念の発達を理解する。	
到達目標	B-①	乳幼児期の認知的発達の特徴と筋道を説明できる。
	B-②	乳幼児の物理的、数量・図形との関わり的事象に対する興味・関心、理解の発達を説明できる。
	B-③	乳幼児の生物・自然との関わり的事象に対する興味・関心、理解の発達を説明できる。
C 幼児の身近な環境との関わりにおける標識・文字等、情報・施設との関わりでの発達		
一般目標	幼児期の標識・文字等、情報・施設との関わりでの発達を理解する。	
到達目標	C-①	乳幼児を取り巻く標識・文字等の環境と、それらへの興味・関心、それらとの関わり方を説明できる。
	C-②	乳幼児の生活に関係の深い情報・施設と、それらへの興味・関心、それらとの関わり方について説明できる。

■考えられる<授業モデル>（※括弧内の記号は、上記の到達目標の内、特に関連の深いものを示す）

授業モデル	(1)	各専門的事項については、映像などの視覚的教材を活用し、具体的な事例などを用いて分かりやすく説明する。（A-①・②・③）
	(2)	幼児に身近な動植物の生態やその栽培・飼育方法を学ぶため、生長の早い植物や野菜の栽培、昆虫の飼育などを行う。（B-③）
	(3)	自然物や身近な素材を用いた簡単な製作等、幼児が環境を取り入れて遊ぶ活動を実際に行い、体験的に学ぶ。（A-②、B-②・③）
	(4)	大学等の近隣を散歩して、幼児が発見する身近な自然や標識・文字、情報・施設についてグループで話し合ったり、地図を作成したり等、学生たちが改めて身近にある自然や標識・文字に関心をもてる活動を行う。（B-③、C-①・②）
	(5)	図書館や公園などの幼児に身近な地域の施設などを実際に参観し、幼児がどのような体験ができるか話し合う。（C-②）

原典：「平成28年度幼稚園教諭の養成課程のモデルカリキュラムの開発に向けた調査研究—幼稚園教諭の資質能力の視点から養成課程の質保証を考える—（報告書）」⁷⁾。

ルとして多く示されていた。
 ・取り扱っている内容の種別としては、領域「人間関係」及び領域「環境」において、「幼児の発達」「幼稚園の生活・環境」「周囲の環境」「現代的特徴・諸課題」に大別することができた。この内、最も多く取り扱われていた内容は、領域「人間関係」及び領域「環境」とも、「幼児の発達」に関する内容であった。
 ・領域「人間関係」においては、「幼稚園の生活・活動」についても多く扱われていた。これに対し、領域「環境」においては、「周囲の環境」が多く扱われていた。
 ・領域「人間関係」においては「自立心」「協同性」「道徳性・規範意識の芽生え」「家庭や地域との関わり」、領域「環境」においては「自然との関わり」

「数量・図形」「標識・文字」等、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」に示されている内容が扱われていた。

演習形式の授業がモデルとして多く示されていたのは、主体的・対話的で深い学びの視点からの授業の推進を図るためだと考えられる。幼稚園教諭や義務教育における教育活動においてアクティブ・ラーニングの実践が求められているのと同様、幼稚園教諭養成課程においても、学生の主体的・対話的で深い学びの視点からの授業実践が求められていると言えよう。

領域「人間関係」及び領域「環境」の授業モデルにおいて、最も多く取り扱われていた内容は「幼児の発達」に関する内容であったことから、「領域に関する専

表3 領域「人間関係」に関する専門的事項の授業モデルに示された内容とその射程

番号	活動内容	教育内容	取り扱っている内容の種別				関連する「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」	関連する小学校の教科等
			幼児の発達	幼稚園の生活・活動	周囲の環境	現代の特徴・諸課題		
(1)	1950年代以降の特徴的な事例を挙げ考える	幼児を取り巻く人間関係に関する現代的特徴と課題				A-①		
(2)	幼稚園において育みたい資質能力の考察 大学生が求められる人と関わる力と幼児との比較	領域「人間関係」 人生を支える人と関わる力	(A-②)	A-②		A-②		
(3)	具体的な事例を基に説明	幼児期の発達(乳児期に育つ人と関わる力)	B-①					
		幼児期の発達(遊びや生活の中で育つ人と関わる力)	B-②	(B-②)				
		幼児期の発達(自立心の育ち)	B-③			自立心	生活科・道徳・特別活動など	
		幼児期の発達(協同性の育ち)	B-④			協同性	生活科・道徳・特別活動など	
		幼児期の発達(道徳性・規範意識の芽生え)	B-⑤			道徳性・規範意識の芽生え	生活科・体育科・道徳・特別活動など	
		幼児期の発達(家族や地域との関わりと育ち)	B-⑥		(B-⑥)	社会生活との関わり	生活科・道徳・特別活動など	
(4)	幼稚園生活の決まりを挙げる	幼稚園生活における決まりのもつ意味		B-⑤		道徳性・規範意識の芽生え	生活科・体育科・道徳・特別活動など	
(5)	最新の知見に基づき説明	幼児期の発達(乳児期に育つ人と関わる力)	B-①	B-①				
		幼児期の発達(遊びや生活の中で育つ人と関わる力)	B-②	(B-②)				
		幼児期の発達(自立心の育ち)	B-③	(B-③)		自立心	生活科・道徳・特別活動など	
		幼児期の発達(協同性の育ち)	B-④	(B-④)		協同性	生活科・道徳・特別活動など	
		幼児期の発達(道徳性・規範意識の芽生え)	B-⑤	(B-⑤)		道徳性・規範意識の芽生え	生活科・体育科・道徳・特別活動など	
		幼児期の発達(家族や地域との関わりと育ち)	B-⑥	(B-⑥)	(B-⑥)	社会生活との関わり	生活科・道徳・特別活動など	

※「平成28年度幼稚園教諭の養成課程のモデルカリキュラムの開発に向けた調査研究—幼稚園教諭の資質能力の視点から養成課程の質保証を考える—(報告書)」⁷⁾「幼稚園教育要領」¹⁾「幼稚園教育要領解説」²⁾「資料3 教職課程コアカリキュラム作成の背景と考え方(案)」¹⁴⁾「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について(答申)別添資料」¹⁵⁾を基に作成。
 ※授業に特に関係の深いとされるモデルカリキュラムとの関連について、表1に示された記号を用いて示した。

表4 領域「環境」に関する専門的事項の授業モデルに示された内容とその射程

番号	活動内容	教育内容	取り扱っている内容の種別				関連する「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」	関連する小学校の教科等
			幼児の発達	幼稚園の生活・活動	周囲の環境	現代の特徴・諸課題		
(1)	映像などの視覚的教材の視聴	幼児を取り巻く環境(物的・人的・社会的環境、安全等)	A-①					
		幼児と環境との関わり方(能動性、好奇心、探究心、有能感等)		A-②		思考力の芽生え	国語・算数・生活科・音楽・図画工作・体育・道徳・特別活動など	
		知識基盤社会及び持続可能な開発のための教育(ESD)などの環境の現代的課題				A-③		
(2)	植物や野菜の栽培、昆虫の飼育	幼児の身近な動植物の生態、栽培・飼育方法		B-③		自然との関わり・生命尊重	生活科・道徳・特別活動など	
(3)	自然物や身近な素材を用いた簡単な製作等	幼児と環境との関わり方(能動性、好奇心、探究心、有能感等)	A-②		(A-②)	思考力の芽生え	国語・算数・生活科・音楽・図画工作・体育・道徳・特別活動など	
		乳幼児の物理的事象に対する興味・関心、理解の発達	(B-②)		B-②	思考力の芽生え	国語・算数・生活科・音楽・図画工作・体育・道徳・特別活動など	
		乳幼児の数量・図形との関わり的事象に対する興味・関心、理解の発達	(B-②)		B-②	数量・図形、文字等への関心・感覚	国語・算数など	
		乳幼児の生物・自然との関わり的事象に対する興味・関心、理解の発達	(B-③)		B-③	自然との関わり・生命尊重	生活科・道徳・特別活動など	
(4)	大学近隣の散歩と地図の作成等	乳幼児の生物・自然との関わり的事象に対する興味・関心、理解の発達	(B-③)		B-③	自然との関わり・生命尊重	生活科・道徳・特別活動など	
		乳幼児の標識・文字等への興味・関心、関わり方	(C-①)		C-①	数量・図形、文字等への関心・感覚	国語・算数など	
		乳幼児の生活に関係の深い情報・施設への興味・関心、関わり方	(C-②)		C-②	社会生活との関わり	生活科・道徳・特別活動など	
(5)	幼児に身近な地域の施設の参観等	乳幼児の生活に関係の深い情報・施設への興味・関心、関わり方	(C-②)		C-②	社会生活との関わり	生活科・道徳・特別活動など	

※「平成28年度幼稚園教諭の養成課程のモデルカリキュラムの開発に向けた調査研究—幼稚園教諭の資質能力の視点から養成課程の質保証を考える—(報告書)」⁷⁾「幼稚園教育要領」¹⁾「幼稚園教育要領解説」²⁾「資料3 教職課程コアカリキュラム作成の背景と考え方(案)」¹⁴⁾「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について(答申)別添資料」¹⁵⁾を基に作成。
 ※授業に特に関係の深いとされるモデルカリキュラムとの関連について、表2に示された記号を用いて示した。

門的事項」として、「幼児の発達」に関する内容は大きな比重を占めていると考えられよう。また、「幼児の発達」に関する内容の多くは、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」との関連を指摘することができるものであった。

「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」は小学校の教科等との関連をもつものであることから、「領域に関する専門的事項」は、幼児期から繋がる児童期初期の成長と小学校における学習内容をその射程に含んでいると考えられる。先述した通り、「教科に関する科目」が撤廃され、小学校教育に関する学修が減少することを考え合わせると、「領域に関する専門的事項」においても、授業時に小学校教育を視野に入れた教授が求められよう。

領域「人間関係」においては、「幼稚園の生活・活動」についても多く取り扱われていた。これは、幼稚園における集団生活が、幼児にとっての成長にとって重要視されているためと考えられる。他方、領域「環境」においては、「幼稚園の生活・活動」に焦点を当てたものは少なく、「周囲の環境」が多く取り扱われていた。これは、幼児が経験し得る様々な環境について理解を深め、幼稚園外の環境を含めた幼児の多様な経験を保障するためであると考えられる。

領域「人間関係」と領域「環境」の授業モデルにおけるこのような相違から、「領域に関する専門的事項」は、幼稚園外における幼児の経験内容もその射程に含んでいると考えられる。これは、幼稚園における教諭としての指導法を学修する「保育内容の指導法（情報機器及び教材の活用を含む）」の射程とは異なるものである。「領域に関する専門的事項」の科目においては、幼稚園という枠組みに捕らわれることなく、現代の家庭や地域社会における幼児の生活を踏まえた授業内容を構想することが肝要となろう。合わせて、現代の特徴や諸課題についても、授業内容の射程に含めるべきものとして考えられる。

これらの内容は、教材研究の一部として考えることも可能である。そこで、教材研究という観点から、「領域に関する専門的事項」と「保育内容の指導法（情報機器及び教材の活用を含む）」との関係性について考察してみよう。中川（2015）は、幼稚園教育における教材研究は、教科教育における一般的な3種類の教材研究とは異なり、次の6種類が存在すると指摘している¹⁷⁾。すなわち、①指導内容との関連における教材の選定・構成、②実際の活動における指導案、③指導内

容・教材に関する文化・特性、④一般的な幼児の発達、⑤園に在籍する幼児の特徴・個性、⑥幼児に即した柔軟な対応である。

本論におけるこれまでの論考から、「領域に関する専門的事項」においては、上記の教材研究の内、③指導内容・教材に関する文化・特性、④一般的な幼児の発達、を中心に扱い、一部、①指導内容との関連における教材の選定・構成についても触れることが考えられる。一方、「保育内容の指導法（情報機器及び教材の活用を含む）」においては、①指導内容との関連における教材の選定・構成、②実際の活動における指導案、について主に扱い、模擬保育等の中で、⑥幼児に即した柔軟な対応についても一部触れるという位置づけが考えられる。教材研究という観点をういれば、「領域に関する専門的事項」と「保育内容の指導法（情報機器及び教材の活用を含む）」の教育内容の射程が、区別できると言えよう。

他方、幼稚園教育要領に示された保育内容を直接対象とするような授業は、授業モデルでは少なく想定されていた。学生にとっては、何について学んでいるのかを明確に意識できれば、学修成果の向上に繋がるであろうことから、授業の最初の部分で、幼稚園教育要領の当該領域について取り上げ、科目の枠組みに関する学生の理解を促したり、教育課程の早い時期に「保育内容総論」の科目を位置付け、領域に関する学生の理解を深めたりする方策が大切となろう。

4. 結 語

本論では、「領域に関する専門的事項」に関する授業内容について、保育教諭養成課程研究会が作成したモデルカリキュラムと授業モデルを対象として、求められる授業内容とその射程について検討してきた。今後は、本論での検討を受け、取り上げることが可能な具体的な内容やそれらの優先度について論考することが課題である。また、各養成校においては、教員組織等について総合的に検討し、独自性のある質の高いカリキュラム及びシラバスを作成していくことが肝要である。

謝 辞

本研究はJSPS 科研費17K04664, 18K02511の助成を受けたものです。

文 献

1) 文部科学省：幼稚園教育要領<平成29年告示>、フレーベ

- ル館, 2017.
- 2) 文部科学省: 幼稚園教育要領解説<平成30年3月>, フレーベル館, 2018.
 - 3) 中央教育審議会: これからの学校教育を担う教員の資質能力の向上について～学び合い, 高め合う教員育成コミュニティの構築に向けて～(答申), 文部科学省, 2015.
http://www.mext.go.jp/component/b_menu/shingi/toushin/_icsFiles/afieldfile/2016/01/13/1365896_01.pdf(確認2018/07/25)
 - 4) 文部科学省初等中等教育局長: 教育公務員特例法等の一部を改正する法律の公布について(通知), 文部科学省, 2016.
http://www.mext.go.jp/b_menu/hakusho/nc/1380404.htm(確認2018/07/25)
 - 5) 文部科学省初等中等教育局長: 教育職員免許法施行規則及び免許状更新講習規則の一部を改正する省令の公布について(通知), 文部科学省, 2017.
http://www.mext.go.jp/b_menu/hakusho/nc/1398706.htm(確認2018/07/25)
 - 6) 文部科学省: 幼稚園教諭の養成の在り方に関する調査研究, 文部科学省, 2017.
http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/youchien/1385790.htm(確認2018/07/25)
 - 7) 一般社団法人保育教諭養成課程研究会: 平成28年度幼稚園教諭の養成課程のモデルカリキュラムの開発に向けた調査研究—幼稚園教諭の資質能力の視点から養成課程の質保証を考える—, 一般社団法人保育教諭養成課程研究会, 2017.
 - 8) 文部科学省: 教職課程再課程認定等説明会質問回答集(平成30年1月9日版), 文部科学省, 2018.
http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/kyoin/1399256.htm(確認2018/07/25)
 - 9) 一般社団法人保育教諭養成課程研究会: 一般社団法人保育教諭養成課程研究会第5回総会資料, 一般社団法人保育教諭養成課程研究会, 2018.
 - 10) 井上邦子・笠次良爾・宮下俊也・高木祐介・横山真貴子: 教員養成における幼稚園5領域科目の内容構成(1)—「健康」に関わる教育内容研究知見に依拠して—, 次世代教員養成センター研究紀要, 第4巻, 229-237, 2018.
 - 11) 藤崎亜由子・宮下俊也・横山真貴子: 教員養成における幼稚園5領域科目の内容構成(2)—「人間関係」に関わる教育内容研究知見に依拠して—, 次世代教員養成センター研究紀要, 第4巻, 239-245, 2018.
 - 12) 辻野 亮・舟橋友香・宮下俊也・森本弘一・横山真貴子: 教員養成における幼稚園5領域科目の内容構成(3)—「環境」に関わる教育内容研究知見に依拠して—, 次世代教員養成センター研究紀要, 第4巻, 247-254, 2018.
 - 13) 棚橋尚子・宮下俊也・横山真貴子: 教員養成における幼稚園5領域科目の内容構成(4)—「言葉」に関わる教育内容研究知見に依拠して—, 次世代教員養成センター研究紀要, 第4巻, 255-258, 2018.
 - 14) 劉 麟玉・宮下俊也・宇田秀士・横山真貴子: 教員養成における幼稚園5領域科目の内容構成(5)—「表現」に関わる教育内容研究知見に依拠して—, 次世代教員養成センター研究紀要, 第4巻, 259-265, 2018.
 - 15) 教職課程コアカリキュラムの在り方に関する検討会: 資料3 教職課程コアカリキュラム作成の背景と考え方(案), 教職課程コアカリキュラムの在り方に関する検討会(第4回)配付資料, 2017.
http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/shotou/126/attach/1384253.htm(確認2018/07/25)
 - 16) 中央教育審議会: 幼稚園, 小学校, 中学校, 高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について(答申)別添資料, 文部科学省, 2016.
 - 17) 中川智之: 幼稚園教諭養成課程における教材研究力の育成に関する一考察—『幼児期から児童期への教育』の分析を通して—, 川崎医療短期大学紀要, 第35号, 71-77, 2015.

